

沖縄現地調査 2018

伊藤美梨子・田村友希

1. はじめに

京都府立大学文学部歴史学科3・4回生向け開講科目「地理学実習」、大学院生科目「地理学演習」では、合同での現地調査を実施しており、沖縄県内の市町村を1つ選択することを恒例としている。沖縄県を選択しているのは、歴史や文化が大きく異なる地域の調査を経験することで、沖縄の特性を知ると同時に、京都や地元の特性についても理解が深まることが期待されるからである。また沖縄戦に関わる慰霊碑・慰霊祭についての調査も継続的に取り組んでおり、そのため6月23日を含んだ5泊6日を設定することを常としている。

2. 今年度の調査概要

調査地は3回生が相談して決めることにしており、今年度は沖縄本島最南端に位置する糸満市が調査地として選ばれた。調査には教員数名も参加した。調査概要は次の通りである。

調査日：平成30年6月20日～25日

調査員：上杉和央・川瀬貴也・藤本仁文（教員）、奥谷三穂（共同研究員）

伊藤美梨子・奥谷慎也・菊川歩夢・田村友希（3回生）

上野優里・植松紀子・田淵巴奈子（4回生）

小川大地・竹内祥一朗（博士前期課程1回生）、稲穂将士（博士後期後期2回生）

このうち、3回生は個人調査と慰霊碑・慰霊祭調査を担当し、4回生は沖縄の文化遺産調査および慰霊碑・慰霊祭調査を担当した。これらの調査成果は京都府立大学文学部歴史学科文化遺産学コース（上杉研究室）『糸満市』（2019）として刊行する。

個人調査のテーマは以下の通りである。

- ・伊藤美梨子 沖縄戦から現在にいたるまでの慰霊のあり方についての聞き取り調査
- ・奥谷慎也 糸満市真栄里区と与座区における水の利用についての調査
- ・菊川歩夢 旧糸満町域に存在した映画館と地域とのかかわりについての調査
- ・田村友希 琉球ガラスの歴史について、琉球ガラス村での聞き取り調査
- ・小川大地 糸満市大里区を中心とする年中行事・祭祀の変化についての調査

3. 慰霊祭調査

糸満市域にある慰霊碑についての調査のほか、6月22、23日におこなわれた慰霊祭に参加するとともに、参列者への聞き取り調査を実施した。取り上げたのは、魂魄の塔、白梅の塔、南冥の塔などである。お忙しいなか、聞き取りに応じていただいたみなさまに感謝申し上げる。



写真1 糸満市役所にて講和を聴く様子
(平成30年6月21日 上杉和央撮影)



写真2 白梅の塔での慰霊祭の様子
(平成30年6月23日 田村友希撮影)



写真3 平和祈念公園での聞き取り調査
(平成30年6月23日 植松紀子撮影)



写真4 平和の礎
(平成30年6月24日 伊藤美梨子撮影)



写真5 映画館跡
(平成30年6月24日 菊川歩夢撮影)



写真6 与座ガ一
(平成30年6月24日 奥谷慎也撮影)